

第2回 プラセンタ研究交流会セミナー

愛玩動物に対する プラセンタと亜鉛を組合せた療法の 症例報告

平成22年12月19日

プラセンタ研究交流会 会長 源平 將充（動物病院ジェム 代表）

プラセンタ研究交流会 理事 新妻 桂子（動物病院ジェム 獣医）

1. チベタンテリア 15歳 オス 8kg

稟 告 元気がない。起きるのに難儀するほど意欲が喪失している。

初診時所見 食欲あり、嘔吐なし、下痢なし、削瘦(BCS:2/5)、歯肉うっ血、足裏pad
固い、四肢関節固い、心音 I 音亢進

治療・経過 亜鉛(30mg sid)、ウルソ(50mg sid)、グルタチオンiv、
プラセンタsc

初診一か月後で覇気が出始め、六週間後にはソファに乗れるようになるなど生活面での改善が顕著になった。

2. トイプードル 6歳 オス

稟 告	肛門のただれ
初診時所見	肛門の腫れ、発赤あり、食欲あり、嘔吐週一回
治療・経過	亜鉛(30mg sid)を服用し、初診一か月後には肛門の腫れや赤みがともに減少した

3. シュナウザー 7歳 オス 7kg

稟 告 皮膚をかゆがる。一年前、他院にて膿皮症と診断され、抗生剤などの治療を受けるも改善しない

初診時所見 背側全体に痂皮および丘疹、痒み強い、舌紫色、舌苔白、心音 I 音亢進

治療・経過 亜鉛(30mg sid)、ウルソ(50mg sid)、ビタミンB液内服、グルタチオンiv、プラセンタsc
初診2週間後に病変部拡大し始め、プラセンタ内服を追加。
四週間後には病変部が全身に広がった。
六週間後より背側病変部が減少し、心音も良好となったため、ウルソ中止とし、フマル酸クレマスチンを追加した。
初診時より二か月たった現在、病変は尾部周辺に残るのみとなった。

4. シュナウザー 4歳 オス 5.5kg

- 稟 告 人のような咳をする。他院にて前立腺肥大と診察うけた。
- 初診時所見 肛門周囲に腫れあり、嘔吐は1～2か月に一度くらい、心音 I 音亢進
- 治療・経過 亜鉛(30mg sid)、ウルソ(25mg sid)
- 初診六週間後には咳は減少しほとんどみられなくなった。
- 心音も良好となり肛門周囲の腫れも改善した。

5. ジャックラッセルテリア 8歳 オス 8.5kg

- 稟 告 皮膚をかゆがる。他院にて原因不明(アレルギーテスト陰性、血検異常なし、皮膚検査陰性)のままステロイド治療するも改善しない
- 初診時所見 全身に発赤、痒み、左眼に眼脂、歯肉うっ血、舌紫色で乾燥、舌苔なし、心音亢進
- 治療・経過 亜鉛(30mg sid)、グリチロン(1t sid)、強力ミノファージェンiv、プラセンタsc
- 初診三週間後に下腹部に湿り気がでてくるなど改善傾向が見られた。五週間後には痒み、赤みはほとんどなくなり眼脂も見られなくなり、元気が出てきた。
- 八か月たった現在でも良好である。